



相馬市 農業委員会だより

○今年度の遊休農地対策事業によって咲いた
満開のヒマワリです。
※詳細は4頁の記事をご覧ください。

主な内容

- 年頭のごあいさつ ······ 2
- 農業委員会研修紹介 ······ 3
- 有限会社ドリームズファームの紹介 ······ 4

- 家族経営協定を締結しました ······ 5
- 地域の交流と伝統の体験 ······ 6
- 相馬市農業委員会だよりが福島民報社長賞を受賞 ······ 6

私たち農業委員および農地最適化推進委員は、農業者の代表として連帯し、市の農業が抱える課題の解決に向けた取り組みをさらに深めていきます。また、関係機関と連携し、優良な農地を次世代へ引き継ぐため、農地利用の最適化推進に努めて参ります。

結びになりますが、市民の皆さまのご健康と益々のご発展を委員一同、心よりご祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます。
市民の皆さんには、日頃から当農業委員会の活動にご理解ご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

一昨年より、米価の高騰が全国的に大きな問題となっています。消費者が低い価格の米を求めている一方、生産者は、依然として肥料、飼料、生資材費などの高騰による生産コストの負担や、近年の温暖化への対応を余儀なくされております。



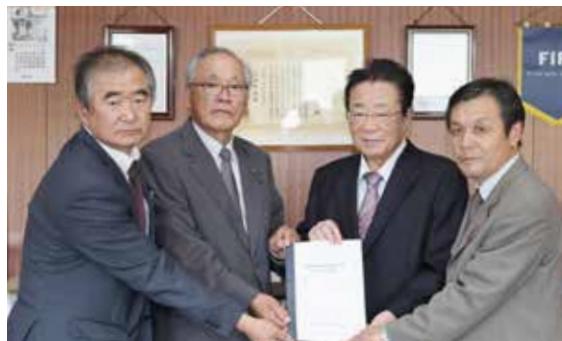
相馬市農業委員会
会長 前川 正人



農地等利用最適化推進施策に関する意見書を提出

令和7年11月18日、農業委員会は農地等利用最適化推進施策に関する意見書を市長に提出いたしました。

意見書には、本市の農業を取り巻く課題のうち、3項目7点について、本市農業の発展と農地利用の最適化の推進のために、今後の市の施策に盛り込むことや、国県等への働きかけについて提案しました。



写真：意見書を手渡す前川会長（左から小島良金委員、佐藤雄一委員、市長、前川正人会長）

意見書の概要

1 農地を取り巻く環境の整備

- ・有害鳥獣対策
 - ・水源・水路の維持管理
 - ・農業振興地域計画の見直し
- #### 2 農業経営の安定化に対する支援策
- ・物価高騰への対応
 - ・スマート農業のための機材導入支援
- #### 3 次世代の担い手の育成
- ・後継者の確保
 - ・新規就農者への支援



詳しくは、こちらのQRコードからご覧いただけます。

「相馬市農地バンク制度」をご利用ください！

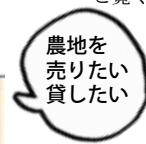
相馬市農地バンクとは、農地の所有者から登録申請のあった農地の売買及び賃借などの情報を公開し、農地の利用希望者がいた場合、農地の所有者へ紹介する制度です。

詳しくは、ホームページに掲載しておりますので、右上のQRコードを読み取ってご覧ください。

○問い合わせ先 農業委員会農地係 ☎ 0244-37-2254



詳しくはこちらのQRコードからご覧ください。





【令和7年6月30日】



【令和7年10月30日】

農業委員会研修紹介

農業委員・農地利用最適化推進委員は、農業者と農地を守るために、日々活動しています。

農業委員・農地利用最適化推進委員の主な活動には、農地の確保と有効利用、農地利用の最適化、担い手の育成・確保などがあります。様々な課題解決に向けて取り組んだ令和7年度前半の研修をご紹介します。

◆令和7年6月30日開催内容

- 農作物に発生する病害虫について
- 営農型太陽光発電について
- 非農地判断についてなど

◆令和7年10月30日開催内容

- 法令遵守について
- 地域計画の更新及び今年度の座談会日程について
- 鳥獣被害対策の実施状況に係る意見交換についてなど



新規就農相談会に参加しました！

◆11月23日..東京ビックサイト
◆11月30日..いわき産業創造館

令和7年11月23日東京都で「新・農業人フェア」が、同30日いわき市で「ふくしま農業人フェア」が開催され、相馬市も新規就農者を呼び込むため参加しました。当農業委員会からは、鹿又幸也委員と廣瀬恵美子委員がそれぞれ参加し、新規就農を希望する来場者からの相談にお答えいたしました。

「新・農業人フェア」では、相馬市の農業体験に参加した方などが訪れ、「相馬市での就農を考えているが、どのようにしたらよいか」など相談があり、相馬市で農業を始めることの支援制度や補助事業、具体的な農業のやり方について、アドバイスを行いました。



来場者からの相談を受ける委員
上段：鹿又委員 下段：廣瀬委員

市農業委員会では、新規就農の呼びかけと新規就農を希望する方々へのサポートを継続してまいります。



有限会社ドリームズファームの紹介



【白幡 正人さん】

(有)ドリームズファームは、本社を山形県鶴岡市に置く農業生産法人です。地元のお米を使った無菌包装米飯（パックご飯）を製造・販売しており、育苗や稻作、商品加工まで一貫して自社で手掛けています。社名には、たくさんの夢（＝Dreams）の農場（＝Farm）でありたいという想いが込められています。現在は、大野台に新たな工場を建設中。今年の3月には操業を開始します。さらに、相馬市の農業復興・農業振興に貢献する取組を始めています。

令和7年10月17日、ドリームズファーム生産部門の農産事業部取締役農産部長で、今年度から新たに相馬市での作付けを行った白幡正人さんにお話を伺いました。

A 相馬で作付けをしてみて感じたことは季候も良く、いい米どころだと思いま

Q 今後の展望は

A 相馬市にも拠点を構え、相馬においても稻作をどんどん拡大していく予定です。

Q 農業への想いを教えて下さい

A 米作りはとても楽しく、やりがいを感じています。手をかけて育てたものが収穫の時期を迎えたときは、本当にうれしく思います。農業従事者の平均年齢は上がってきていて、農業者は年々減少しています。今後は、いかに農業収入を増やすかが課題だと思います。農業収入が増えれば農業者人口の増加にもつながります。また、働き方改革も必要だと思っています。

Q 田の管理に何度も山形から通いましたが、夏場は思ったより蒸し暑く、作業するのが大変でした。水の管理は、地権者の方にしていただいたので助かりました。

Q 相馬で作付けしたお米は、どこへ出荷しますか

A 日立木のカントリーエレベーターに預け、農協に出荷することになります。今後、相馬での作付け面積が増えたら、パックご飯の原料として取り扱う予定です。

Q 相馬市で作付けした米の品種は

A コシヒカリです。



【ヒマワリの種をまく委員ら】

遊休農地対策事業を実施しました

農業委員・農地利用最適化推進委員会は、令和7年7月12日、日下石地区の遊休農地を耕起し、ヒマワリの種をまきました。この事業は、遊休農地対策のPR活動のほか、ヒマワリの土壤改良効果により、遊休農地を新たな耕作希望者へつなげることを目的に毎年行っています。品種は「夏りんごう」。8月下旬から9月初旬にかけて見頃を迎え、多くの人の目を楽しませてくれました。（表紙）また、ヒマワリから採れた種は、事業のPRのため、市役所を訪れた方に配布します。農業委員会では、今後も遊休農地の有効活用を進め、地域の農業振興に力を入れて参ります。



家族経営協定を締結しました！



長男隼哉さん



坂本さんご夫妻

【協定内容の一例】

- 労働時間
始業時間は午前8時
就業時間は午後5時
- 休日
月4回（代休有）
- 健康管理
年1回は健康診断を受けるなど



長女真彩さん

坂本家では、水稻やブロッコリー、栽培をメインに家族経営をしています。経営主の雄司さんは、「家族内での役割分担を明文化することで、農業経営や家事分担について改めて話し合う良い機会となりました。家族がお互いに尊重し、充実した共同経営を実現していきたいと思います。」と意気込みを語ってくださいました。

家族経営協定とは？

ワーク・ライフ・バランスの実現へ！

家族での農業経営は、家族だからこそ強みがたくさんあります。一方で生活と経営の境目が明確でなく、家庭内での農業経営や家事に関する役割分担、労働時間や労働報酬などの就業条件が曖昧になりやすい傾向にあります。

「家族経営協定」とは、これらを明文化したもので、協定書を締結することで家族内の円滑なコミュニケーションを促進し、経営の安定化を図ることができます。

協定書の内容や様式に決まりはありませんが、主に以下のようない項目を含めることが一般的です。

・役割分担・労働報酬・労働時間・将来の経営移譲など

この協定は、家族の結束強化や経営参画意識の向上、農業者年金の国庫補助などの制度利用のメリットがあります。

家族経営協定をお考えの方は、ぜひお気軽にご相談ください。

農業委員会で活躍する女性委員を紹介します！



【廣瀬恵美子委員（小野）】

Q 家族構成は？
A 夫と高校生の娘です。

相馬市農業委員会は、令和6年の改選で、女性委員が1名から3名に増えました。このコーナーでは、農業委員会で活躍する女性委員を紹介します。

Q 農業委員になろうと思ったきっかけは？

このコーナーでは、農業委員になろうと思ったきっかけは、農業委員会で活躍する女性委員を紹介します。

Q 農業委員になろうと思ったきっかけは？

Q 農業委員を1年やってみての感想とこれから豊富は？
A 農業委員の仕事は、思つていたよりもたくさん業務があり、農地法についてもまだ学ぶことも多く大変ですが、先輩方の指導を受けたり、農家さんの話を直接聞く機会が増え、充実しています。

Q 農業委員を1年やってみての感想とこれから豊富は？
A 農業委員の仕事は、思つていたよりもたくさん業務があり、農地法についてもまだ学ぶことも多く大変ですが、先輩方の指導を受けたり、農家さんの話を直接聞く機会が増え、充実しています。



～地域の交流と伝統の体験～ しめ縄作り教室



前農業委員である三國実加さんが主催する「しめ縄作り」の教室が、令和7年12月18日開催され、地域の方々とともに貴重な伝統を学び楽しむ場となりました。この取り組みは、三國さんが農業委員の経験を生かし地域貢献を目的に企画しました。

農業委員の武島竜太さん指導のもと、参加者は、綿糸で縄もじりの基礎を練習した後、実際に稻わらを使って、自分だけのしめ縄作りに挑戦しました。参加者らは、「楽しかった」「貴重な体験ができた」となどの喜びの声をあげていました。

全国農業新聞

月4回
金曜日発行
月額700円

お申し込みは農業委員会までどうぞ。
農業委員会事務局
☎ 0244-37-2190

老後の備えは
十分ですか？

老後の備えは
国民年金
プラス
農業者年金！

お手積立年金

農業委員会
☎ 0244-37-2190

相馬市農業委員会だより

福島民報社長賞を受賞！

このたびの受賞は、これまで取材にご協力いただいた皆様のお力添えがあつてこそその成果です。皆様とともに作り上げた紙面をご評価いただけたことを、大変嬉しく思っております。ますますようお願い申し上げます。

クールで相馬市農業委員会だより第71号が福島民報社長賞を受賞しました。



左:後藤義昭委員
中:中和田吉彦委員長
右:館山友美子委員



新年あけましておめでとうございます。

昨今、地域の担い手が高齢化し、農業を続けたくない。そんな状況を目の当たりにして、「人が頑張る」だけでなく、「仕組みとして支える」ことの必要性を痛感しております。

「地域外の若者」を受け入れ「地域で生きることの面白さ」を多くの人に伝えたいと思います。

この広報誌が、農業者同士、地域住民の交流や地域への情報発信の一助となることを願っておりますので、ご意見・情報などを寄せただければ幸いであります。

(中和田)

編集委員長 中和田吉彦
委員後藤義昭
委員館山友美子

■編集・発行

相馬市農業委員会

相馬市中村字北町63-3
☎ 0244-37-2190



編集後記